

4-156  
 極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國、其他

「第一」

「宣誓書」

荒木貞夫、其他

予徳川義親ハ下記ノ眞實ナル事ヲ良心ニカケテ  
 誓フモノデアリマス。

私ハ大川周明博士ヲ久シイ同知ツテ居リマシタ。  
 私ハ彼ト昭和維新ノ鼓吹ニ就イテ度々長論ヲ致  
 シタコトガ有リマス、予彼ノ主義ハ公ク汎アデヤ  
 主義ニ關スル數多ノ著書或ハアデヤ民族ノ白人種  
 迫害等ニ通ベテ居リマス。

一九三一年ノ一月カ二月ノ或時私ハ東京ノ某旅  
 館デ上記大川周明博士、其他若干名ト會ヒマシタ。  
 晚頃前軍國主義者ヲ政府統制ノ地位ニ置ク計畫ニ  
 就イテ一般的ナ論議ヲ致シマシタ。一九三一年ノ  
 三月中旬ノ或時デシタガ「コモトダイサクト」開  
 フ一陸軍大佐ガ夜分ニ來邸シテ私ニ軍務局長陸軍  
 小將小磯園昭ノ名刺ヲ差出シマシタ。

前記コモト大佐ハ前記小磯園下ノ命ヲ受ケテ來  
 邸シ、私ニ前記大川周明博士ニ會ツテ、彼等ガ以

前ニ意見ノ一致ヲ見タ計畫遂行ノ放棄一即チ政府  
ヲ軍部クイデ一タノ下ニ置ク計畫ヲ断念スルベク  
博士ヲ説得スル様私ニ願ツタノデアリマス。  
前記コモト大佐が辭居シタノデ、私ハ直ニ前記大  
川周明博士ノ屋敷ヲ訪問シ、長論議ノ結果前記大  
川周明博士ハ軍部ノ意向ニ從ツテ該計畫放棄ニ同  
意シタノデアリマス。

數ヶ月後ニナツテ前記小磯園閣下ハ私ニ電話  
デ來邸シテ呉レト申シマシタノデ私ハ參上致シマ  
シタ。私ガ閣下ノ邸ニ居ル間ニ前記小磯閣下ハ次  
ノ様ナコトラ申シマシタ。一「私ハ今參謀本部内  
デ困ツタ境遇ニ居ルノデス一其ノ理由ハ約三〇〇  
圓ノ爆彈ヲ不成功ニ終ツタ三月クイデ一タノ使用  
ノ爲メニ獲得シテ、該爆彈ヲ一箱永コノスケルト  
ン關フ者ノ家ニ引渡シテ今尙該爆彈ハ此ノ清水ノ所  
有ニアルノデス。  
更ニ前記小磯閣下ハ申シマシタ。一「私ハ貴同前  
記清水ニ對シテ該爆彈ヲ返却スベク要求シタノデ  
スガ、前記清水ハ之ヲ拒否シタノデス一ト。ソコ  
デ前記小磯閣下ハ私ニ直ニ前記清水ニ會ツテ該爆  
彈ヲ返却スベク又必兵ナラズ金錢ヲ交換フ様ニ申  
シ付ケマシタノデ、私ハ直ニ前記清水ノ邸ニ參上  
致シマシテ、該爆彈ヲ金錢ノ交換ト無シニ軍部ニ  
返却スル様勸メタノデアリマス。

候 曾 德 川 義 親

一九四六年六月一五日日本山東京山県管内ニ於テ  
上記徳川義親ハ下記將校署名ノ前ニ宣誓捺印ス。

ヘリマン・ドールスイ、

大尉・法務局

證 明 書

予デエリー・エム・スシヨシ ハ日英兩國語ニ  
通曉セル者ニシテ當日上記宣誓書ヲ前記徳川義親  
ニ日語ニテ讀破セシメ、斯クシテ其内容ヲ英語ヨ  
リ日語ニ眞實且ツ正確ニ翻譯シ前記徳川義親ハ上  
述宣誓書ノ内容ハ眞實ナリト申告シタリ。  
斯クシテ彼親ヲ宣誓シテ該宣誓書ニ署名捺印ヲ欲  
スー即チ徳川義親ハ予ノ面前ニ於テ正シク宣誓シ  
且ツ面前ニ於テ該宣誓書ニ宣誓署名捺印シタルモ  
ノナリ。  
上述宣誓ノ施行竝ニ前記宣誓書ニ依ル署名捺印ニ  
附屬セル訴訟手續ノ一切ハ日語ヨリ英語ニ又英語  
ヨリ日語ニ眞實且ツ正確ニ翻譯サレ、前記宣誓者  
ニ依リ充分了解納得サレタルモノナルコトヲ茲ニ  
證明ス。

71-71511

1. 日本国政府より一國に、日本国政府に送付

1. 日本国政府より一國に、日本国政府に送付